

有害動物

ジャンボタニシ町内で発生

「イネ」があぶない!

ジャンボタニシ(和名:スクリンゴガイ)は、昭和五十六年頃から、食用として台湾などから日本各地に持ち込まれ、増殖が始まりましたが、現在は、髄膜脳炎を媒介する広東住血線虫の中間宿主となるおそれがあるため**食用には**

していません。その後、管理がいきとどかなかつたため野生化し、異常な勢いで繁殖、水稻を始めとした農作物に被害を及ぼすようになりました。このジャンボタニシは食欲旺盛で、発芽時の幼植物を好んで食べるため、水稻では、

移植後二〜三週間の若い葉の時期に、短期間で驚くほどの被害を及ぼします。

今年一月現在で、野栄町や八日市場市など近隣の市、町で発生し、特に野栄町では大きな被害を受けたという情報が入っていました。当町での発生は確認されていませんでした。ところが、六月に入ってから、白磯の伊勢化学工業北側の栗山川へ向かう排水路に生息しているのが発見されました。まだ生息数が少ないため、被害は受けていませんが、今のうちに退治しておかないと、大きな被害を及ぼすことが十分考えられます。

厳寒期に

耕起を

●ジャンボタニシは殻がもろいので、ロータリー耕でこわれることが多いため、一月末から二月上旬の厳寒期に水田を耕起すると、越冬中の貝は殻がこわれ、寒気にふれて生きていられなくなります。



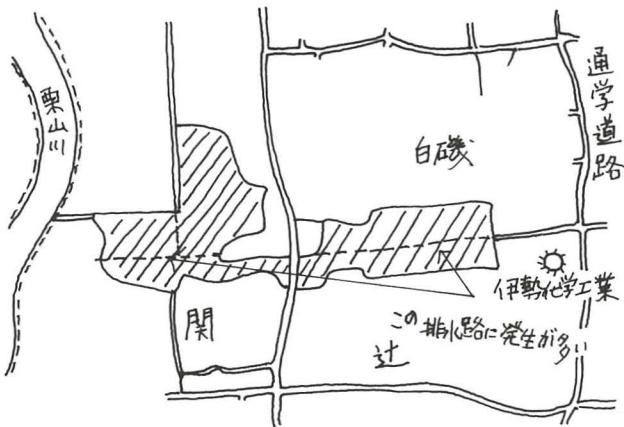
ジャンボタニシ 卵塊

ジャンボタニシ 殻高直径 約5~6cm

見つけたら

必ずつぶす

●ジャンボタニシを見つけたら、成貝、卵塊とも必ずつぶして下さい。活動時期は五月から九月ごろまでで、その後は土中にもぐり生息しますのでなるべく活動時期に見つけ出すようにしましょう。



この地域以外でジャンボタニシを見つけた方は、役場産業課にご一報ください。

☎ 04-2211(有)206602



▲被害にあった水田(野栄町)

▶ 殻の色は茶かっ色か黒かっ色。卵塊は鮮かなピンク色です。